

Sharing
Nature
Life

シェアリングネイチャーライフ

2014
VOL.

6

秋

特集

耳をすまして

音でみる 多彩な風景

<http://www.naturegame.or.jp/>



公益社団法人
日本シェアリングネイチャー協会



スポーツ振興くじ助成事業

自然をまるかじり

No.6

隠れた秋の味覚



縄文人のDNAが残っているのだろうか

大人になっても

ドングリを見ると

つい夢中になって拾ってしまう。

上着のポケットにいくつか入れて

手でジャラジャラと

感触を楽しみながら散歩を続ける。

拾い過ぎた時には

家でドングリを煎って食べる。

甘くない栗のような味・・・

「美味しい」にはほど遠いけど

自然がくれた、秋の味。



『シェアリングネイチャー』
それは、人が自然を尊重し
共生していく社会のキーワード。
公益社団法人 日本シェアリングネイチャー協会は
『自然と遊び、自然から学ぶよろこびにあふれた生活』
—をおくる人の輪を広げる活動を行っています。

Sharing S N Nature Life

シェアリングネイチャーライフ

2014 VOL. 6 9月号



c o n t e n t s

自然をまるかじり	2
特集 ●耳をすまして	3
イベントレポート	7
被災地復興支援情報	7
News	7
自然が先生 ●好き嫌いだらけ？動物たちの食生活	8
ネイチャーゲームで体験しよう！〈森の設計図〉	8
じいちゃんのひと言、ばあちゃんの知恵 ●東京都・稲城市	10
プレゼント	10
四角友里 ●なんにもしないアウトドア	12

編集後記

特集で取材をした三宮麻由子さんのピアノ演奏を交えた講演があると聞き、足を運んだ。三宮さん作曲の『ゴキブリがつぶされるまで』が圧巻だった。ゴキブリが台所に登場し、あらゆる方法（スリッパや台所洗剤など）で人間から攻撃を受けながらも逃げる姿が描写される。ついに動きが止まる…と、聴衆から“ブラボー”の声と大拍手。その感性と才能、そして努力に感動し、涙がこぼれた。（佐々木）

【特集】

耳をすまして…音でみる 多彩な風景



音でみる 多彩な風景

自然のパワーを充電したいと
海や山へ出かける計画を立てること、誰にもあると思います。
けれども、自然はどこにでもあり
常に私たちの周りで動いている…というのは、三宮麻由子さん。
目を閉じて耳をすませば、風が奏でる音や、鳥や虫の音が
ここにいるよ…と伝えてきます。

音の自然案内人
【エッセイスト】
三宮麻由子さん



4歳のときに病気により失明。外資系の通信社で報道翻訳を行う一方、自らの自然体験や日常で感じたことをエッセイや絵本で伝える。日本野鳥の会会員。

耳をすませば 自然はそこに

「シーンレス」それは、エッセイスト・三宮麻由子さんがつくった「全盲」の人の特徴を表した造語です。
4歳で病気のために、視力を失った三宮さんにとって、「風景」は見ることはできないもの、まさに「シーンレスの世界」のはずでした。ところがある朝、鳥たちが鳴きだすのを山でじっと待って

た三宮さんに、野鳥が自然の景色を見せてくれたのです。
それは、長く垂れた尾羽が特徴のサンコウチョウ。朝のさまざまな鳥のさえずりのなか「ギツ、フィー、ホイホイ」と交わされる特徴的な鳴き声に包まれて、三宮さんは「時計という媒体を通して強引に法則化した時の流れではなく…(中

インタビュー／編集部
文／伊東久枝
イラスト／井上みさお



音で感じる



略)：母なる大地が自転を繰り返すと、その動きが地上に乗っているすべての物質や生物に伝わり、光と命が鼓動する。そのプロセス自体が自然のサイクルと成って時をつくる」(集英社文庫『鳥が教えてくれた空』より) ことを、三次元で動く自然を音で感じながら実感したいです。

多くの命が躍動する夜明けの時間。時の移ろいを目で見られる私たちは、その流れをしっかりと聴き味わっているだろうか。身体的能力は備わっているのに、我ながらもつたない…と思います。

視力を失ってまもなくはじめたピアノのレッスンで得た絶対音感と音を楽しむ習慣で、「音が大好き」という三宮さん

ギンナン編



ドングリ・マツホックリ編



草の実編



ん。以前からスズメの声を聞いて刻々と変わる夜明けの時間を知り、さえずる鳥の種類や鳴き声の変化で季節を感じたりしていたといいます。でも：

「前は何の鳥がどこにいるか、どの種類の森に何の鳥がどのくらいいるか。ポイントの要素で、オーケストラのなかからピアノの和音を聞き取るように、鳥の声ばかりを聞き分けていたんです」

それが三次元の世界、「風景」へと明らかに変化したのは、自然観察指導員の講座に参加してから。そのときのことを著書『鳥が教えてくれた空』のなかで、三宮さんはこう記しています。

「木の下の腐葉土に何があるのかを確かめた。湿った落葉が何層にも重なったなかに、ガの羽やヤスデ、クモ、鳥の羽などさまざまな生きものや、その落とし物が隠れている。クスノキの葉だけを食べるアオスジアゲハの糞が、樟脳の香り

を放つことにも驚いた。そこはまさに命の生産現場だった。…(中略)…このときから、植物が育む生態系に深く心を打たれるようになった。それまで知識としてしか頭に入っていなかった自然が、突然目の前で姿となって再現されたのだから。この実体験が、個の観察方法しか知らなかった私の植物観を、森へ、野原へ、地球へと誘ってくれた」

その体験は鳥の声の聴こえ方にも変化を与えたのです。

「ジュレイチという鳥が鳴いているのを聴いても、生態の知識がなければ、季節が夏で山がどのくらい深いということ、わかりませんよね。遠くの山で別の鳥の声が聴こえるから深い森のある山がそびえているとか、前面には谷が広がりひらけた林があるとか」

知識を得てはじめて、音が風景となっ
て見えてきたのだそうです。景色どお

音源に感性をあげないと
本当の音は聴こえてこない。



へりに棲み分け、歌い分ける鳥たちの声が立体的に聞こえ始め、鳥の音が耳で聞く景色になったのだと。

ただし、これができるためには三宮さんが持つもう一つの技術、「音源定位」が必要です。三宮さんは、周りの音で自分のいる場所の高さや頭上の木の種類、壁との距離などが分かるのです。

「これは盲学校で徹底的に訓練された技術です。でも、この訓練を受けたシーンスの人がすべて、音で風景を感じているかというと、そうではないんです」

それは、視力がよくても自然を「見る目」があるかどうかは別問題…なのと同じです。

「評論」をすると

風景は聴こえてこない

「音で自然を感じるために必要なのは、余計なフィルターをかけずに、ただ聴くこと。それは自我を捨てて自然に完全に心を預けることです。自分の物差しを残してしまうと、音は感性に届きません。ただし聴こえた音を分析することも大切です。でも分析は、知識を寄せ集めて「評論」することとは違います」と、三宮さん。

評論は知識さえあれば、ある意味誰にでもできます。けれど大切なのは「どこまで感じられるか」ということ。つまり「感性のアンテナ」を伸ばし、ありのまま

匂いで感じる

① 雨の香りがする…

雨のにおいだ

② 2ブロック北の通りで騒がしい音がし始める

その音が、ゆっくり近づいてくる

だんだんその音がはっきり聞こえる

車の音?

③ 次の瞬間

今までもここに溜まっていた雨の匂いが突然消える

あれ? 匂いが消えた

④ 激しい雨に全身を包まれる

雨の匂いが、水を浴びた草木の故つ甘い香りに変わっている

匂い変わった!

⑤ 雨脚が弱まり

フッと音のない音をたてて

草木の温まった匂いだ…



まの自然を感じられるかどうかです。

「精巧なアンテナを持つていて、多くの音を聴き分けることができても、分析する力がなければ、風景は見えません。逆に分析ができて素直に聴くことができなければ、誤変換をしようんです」といいます。

そして、この「しつかり受信できるアンテナ」さえあれば、大自然のなかにわざわざ出かけていなくても、いつでも自然を感じることができるとのこと。小鳥もいない、虫の音も聞こえない、高層マンションの上層階…。そこでも三宮さんの耳には、豊かな自然の音が聞こえているのです。

「地上近くで聴く雨音は、雨が何かに当たった音ですね。でも高層階のベランダで聴く雨音は、純粹な雨の音。サーツという空を切つて雨が落ちる音なんです。そして風は、低層階ではフーツフーツと

いう地上に吹く音がして、高層階になるとゴーツという気流の音になる。1階上がっただけで、風の音が変わったりします。それは、私にはまさに「空と大地が呼吸をしている音」に聴こえるんです」

自然はどこにもある。ただ、鳥の音が聴きたいときに鳥がいなかったり、街に波音が聞こえなかったり、欲しいときに欲しい自然がないだけのこと。そう三宮さんは思うそうです。

「山や海へ、自然を楽しみに出かけるのもいいと思います。ただ、自然を逃げ場にしてはいけないと思うんです。森林浴でリフレッシュしても、日常に戻ればすぐに元に戻ってしまいます。けれど、自分のいる場所の自然から充電する方法を知ることができれば、そのアンテナを持つてれば、いつでもどこでも自然のパワーを充電できる。それが本当のシェアリングネイチャーではないでしょうか」

引用・参考：『空が香る』三宮麻由子著／文藝春秋

自然に無駄なものなどない。
すべてのものが「宝物」。

普遍的な可能性は 万人に同じ

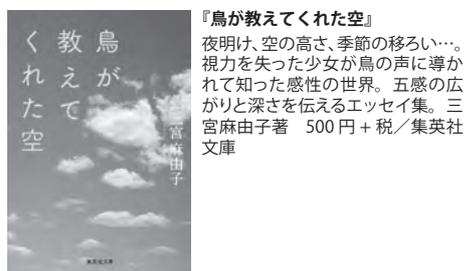
文明社会のなかでは、ややもすると自然からもらうことばかりを考えがちのような気がします。けれど、「シェア」とは、持ち分をもらうことだけではありません。

「人間も、常に自然にお返しをしています。それは公園や海岸の掃除をしたりするというのではなく、他の生命と仲良くしたり、せめぎあったりして生きている、その活動自体が、生態系の一部として機能しているのだと思います」

無駄にボーとしている自然なんてない…と、三宮さんは常々感じているそうです。自然はいつでも三次元で、自分がある場所に関わらず、上でも下で



『かぜフーホッホ』
「ブオッフア ブオッフア」シーツが風に煽られる音、「ドゥワー ドゥワー」プラタナスの木が揺れる音。ユニークな“音”につつまれながら散歩をする兄と妹の小さな物語。文・三宮麻由子 絵・斉藤俊 800円+税/福音館書店



『鳥が教えてくれた空』
夜明け、空の高さ、季節の移ろい…。視力を失った少女が鳥の声に導かれて知った感性の世界。五感の広がりと深さを伝えるエッセイ集。三宮麻由子著 500円+税/集英社文庫

に生産活動をしなない犬やネコが価値のない生きものかといえば、そんなことはありません。

私は、視力を失うというハンディキャップを持ちました。でもそのお陰で、今このような話ができます。つまり、普遍的に与えられた可能性は、万人に同じなんです。女性であるとか、歳をとっているとか、多かれ少なかれハンディキャップは誰にでもあります。ただ、それを受け入れるときに、自分には「与えられた可能性がある」と思っ

て受け入れるのか、「私だけ大変だ」と思っ

ます。

三宮さんは、現在会社勤務の一方、エッセイや絵本を執筆し、各地での講演活動も精力的に行っています。その講演でも、お話とともに機会があるごとに披露するのが、ピアノの演奏です。そして、よく弾く曲のひとつが、リストの『ラ・カンパネラ』。

「この曲には、自然が伝える『宝物感』と同じものを感じる」という三宮さん。彼女の奏でる『ラ・カンパネラ』をぜひ一度聴いてみたいと思います。

今ここに

自然に、

手が届くこと。

三宮麻由子

私の
シェアリング
ネイチャー



全国ネイチャーゲーム 研究大会 in 福島

2014/6/6~8 渡辺峰夫(東京都)

Event Report 1

休暇村裏磐梯で開催された第24回研究大会のテーマは「さすけねえ 笑顔と元気 魅力満点裏磐梯」。「さすけねえ」とは大丈夫の方言。原発事故で大きなダメージを受けた福島県のスタッフから、強く明るいメッセージが発つせられた大会となりました。全国から100名を超える参加者を迎え、トレッキングや和菓子作りなどを楽しみ、最後は全員で「ネイチャーゲーム」。裏磐梯を題材に大きな大きな輪ができましたよ。



ネイチャーゲーム大学 第3回：子どもの発達心理学

2014/7/26 根岸由香里(群馬県)

Event Report 2

初参加の期待に胸を膨らませて受けた講義は、保育士をしている私にとって想像以上の成果がありました。浜松学院大学短期大学部幼児教育科教授の浅井先生の講義は熱く、有意義な資料もたくさん。子どもとの関わり方や向き合い方などの勉強になったばかりでなく、自分の本質を見直すこともできました。自分のことなのに知らないことがまだまだある！とても充実した時間でした。是非、また参加したいです。



被災地 復興支援情報

福島から避難した子どもたちの未来を育む活動がスタート!

NPO法人ココロカラダを育てるツビプロジェクト
代表理事 ましろが福島県から東京に母を避難中

私たちは、福島の原発事故から避難した子どもの心身の成長をサポートするために、東京へ避難した母親と支援者で立ち上げたNPO法人です。事故から3年がたった今も東京には6400人が避難生活を続けています。幼くして故郷を離れ、父親と別れた母子避難、兄弟離散、里子など、複雑な状況を抱えた子どもも多く、不安定な環境のなか子どもたちは喪失感と虚無感に包まれています。大地や生きもの：自然にふれあう、真に豊かな体験を通じて、自己肯定感や自己達成感を持ち「子どもらしい心の育ち」ができるように支えたい。そして、将来の自分や未来の世界に向かって夢や希望を諦めない大人になっただけでほしい！と願っています。どうかご支援をお願いします！



<http://kokokara-hp.org/>
<https://www.facebook.com/kokokara.hp>

福島避難親子 支援プロジェクト はじまります!

シェアリングネイチャーの考え方や手法、そして会員・組織を活用し、自然体験プログラムを実施します。参加者負担費用を軽減する目的の募金にご協力を! 現在、ボランティアスタッフも募集中。
実施日:
●9/27(土) 神奈川県南足柄市
●11/29(土) 神奈川県川崎市
●2015年 2/21(土)~22(日)
長野県戸隠
詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www.naturegame.or.jp/news/002202.html>

FUKUSHIMA
HAPPY
PROJECT



News

日本シェアリングネイチャー協会 理事会・総会報告

本年5月に平成26年度第1回理事会、6月に通常総会が開催され、以下の議案が承認されました。

- 平成25年度事業報告
- 平成25年度決算

科目	25年度
一般正味財産増減の部	
1. 経常増減の部	
1. 経常収益	
基本財産運用益	5,063
受取入会金	425,500
受取会費計	37,410,000
公益目的事業収益合計	60,231,781
受取補助金等計	4,097,000
受取負担金	585,000
受取寄付金	151,000
雑収益計	6,084
経常収益計	102,911,428
2. 経常費用	
公益目的事業費計	90,968,820
管理費計	9,279,558
経常費用計	100,248,378
当期経常増減額	2,663,050
2. 経常外増減の部	
1. 経常外収益計	0
2. 経常外費用計	0
当期経常外増減額	0
当期一般正味財産増減額	2,663,050
一般正味財産期首残高	56,288,129
一般正味財産期末残高	58,951,179
正味財産期末残高	58,951,179

- 表彰審査規程の改訂
- 役員補充：新理事 阿部利也
- 役員候補者名簿作成委員会の次期委員の選任

地域実践団体設立

さんりくりアス・シェアリングネイチャーの会(岩手県)、いなぎネイチャーゲームの会(東京都)
これにより、合計213会

専門委員会報告

- 指導者養成委員会—5月23日(金)
 - ◆2014年度委員の選任
委員長：能條 歩/副委員長：三好直子
委員：石崎一記、神内恵子、服部道夫、
峯岸由美子、藤田航平
 - ◆指導員報『自然案内人』制作の進め方の確認
 - ◆インストラクター認定講座についての確認
 - ◆ワーキンググループの設置
 - ◆リーダー養成講座における講師トラブル対応策
- シェアリングネイチャー普及委員会—7月15日
 - ◆セラピスト向け講習会の開催確認
 - ◆ネイチャーゲーム認定園の設置確認
 - ◆団体のシヨルダークピー作成に向けての審議



全国銘菓お茶っこ広場 開催中!

被災地で仮設住宅にお住まいの方々のコミュニティ支援を続けています。あなたの地元銘菓を被災地に送ってください。現地ボランティアも募集中。
●岩手県大槌：9/21、10/19、11/16、12/21
●宮城県雄勝：10/5、11月末予定
*詳しくはホームページをご覧ください。
<http://www.naturegame.or.jp/news/001921.html>

2013年度

シェアリングネイチャー奨励賞発表

【指導者養成部門】

- 最優秀賞：古田栄子(宮崎県)
- 優秀賞：藤田庄治(静岡県)
- 努力賞：若井直美(富山県)

【普及部門】

- 最優秀賞：
フェニックス宮崎シェアリングネイチャーの会
- 優秀賞：
東京都シェアリングネイチャー協会
- 努力賞：
宇治やまぶきシェアリングネイチャーの会

*受賞理由は、ホームページをご覧ください。
<http://www.naturegame.or.jp/member/manabi/shoreisyo/>

10月19日(日)は 第8回全国一斉

『シェアリングネイチャーの日』

毎年10月の第3日曜日は『全国一斉シェアリングネイチャーの日』です。イベントに参加したり、家族や仲間と、または一人で……日常のほんのひと時、自然とふれあってみませんか? Facebook「シェアリングネイチャーの日」で体験をシェアできます。
●実施日：10月19日(日)
*本誌P.11に関連情報があります。



好き嫌いだらけ？ 動物たちの食生活

健康を保つために食事はバランスよく

…というのは人間界の常識。

ところが自然界では、それは少数派かも。

それでも元気な、命は不思議です。

あなたなしでは

生きてはゆけぬ。

ツマグロキチョウの

一途食い！

人間の食の常識をよそに、動物の世界を見ると、バランスどころか「決まったものしか食べない」という生きものがなんと多いこと。

なかでも昆虫は、植物ごとに異なる特別な成分を匂いや味で感じ、それぞれ決まった植物を食べています。野菜についていた虫を殺してしまふのはかわいそうと庭の草むらに放し



村山哲哉 (むらやま てつや)

文部科学省初等中等教育局教育課程理科教科調査官。理科教育の理念と効果的な学習手法の普及のために、年間170校以上の小学校を訪れ、教員へのアドバイスなどを行う。日本シェアリングネイチャー協会体験型環境教育研究会委員。



黒い羽先が特徴のツマグロキチョウの幼虫は河原や道端に生えるカワラケツメイしか食べません。

護岸工事や道路の舗装の影響で絶滅が危惧されるカワラケツメイとともにチョウの存続にも赤信号！

イラスト/井上みさお

自然界のつながり
Nature Game

自然が先生！

ネイチャーゲームで体験しよう！

森の設計図

ただ一種の生物しか食べない生きものを「単食性」、少ない種類の生物を食べるものを「狭食性」といいます。このような生態を持つ生きものにとって、餌となる生物が減ることは、種の存続に関わる重大問題です。

人間だけでなく、多くの生物が暮らせる、理想の森とは、どんな森でしょうか。ネイチャーゲーム「森の設計図」で、あなたの理想の森を描いてみましょう。

「ゲームの楽しみ方」

- 生きもの同士のつながりや生きるための環境を想像し、自分が思う「理想の森」を紙に描きます。
- 家族や友だちで、それぞれが描いた森を紹介しあいまししょう。



森のなかに広い原っぱがあって
そのまんなかに大きな木があって
その木に登ると鳥がたくさんいて…。
鳥がいるためには
原っぱには餌になる虫たちもいて。

イラスト/井上みさお

ても、生きてはいられないのです。

この「一途食い」が仇になり、環境の変化で急激に減少する植物とともに姿を消そうとしている昆虫が、じつは今、数多くいます。

そして、この偏食傾向は昆虫だけでなく、ほ乳類でも少なくありません。なかにはコアラのように、他の動物には毒になる成分を含むユーカリを好んで食べ、元気に生きているものもいます。

人間は多くの種類を食べることで、さまざまな環境で生きられるように進化した生物です。かたやコアラは、他の動物が食べられない植物を、毒を分解するしくみを体に備えることで生きのびてきた生物。進化の道はじつに多彩なのです。

身近に暮らすイヌやネコも、「食」をみると人間とはまったく違う生きもの。本来「動物食」の彼らにとって、ネギ類やチョコレートなど、人間の食べものの中には、命の危険がともなう「毒」もあるのです。



1日30品目!
食事はバランスよく!



毒があたって
へちやらせ。

うまっ...

ネイチャーゲームとは

1979年に米国のナチュラリスト、ジョセフ・コーネルにより発表された活動です。見る・聞く・触る・かぐなどの感覚をつかって、自然を楽しむ、自然と仲良くなるためのプログラムです。



ネイチャーゲームの創始者
ジョセフ・コーネル



草が育つためには
水が必要だから
近くに川が流れていて
川の源流の山があつて...
川には魚がいて
魚を捕りにくる
クマもいて...

子どもらしい自由な想像力を大切にしながらも、大人が生きもの同士のつながりのヒントを出してみるといいでしょう。



「いいちゃんのひと言、ばあちゃんの知恵」

【東京都・稲城市】
聞き人／岩澤仁美

イラスト／
初澤久美

いや、みづとに

おいしくなく、おいしくなるの

ばっか、いいんだよ



毎日の食卓。消費税も上がったし、同じ野菜を買うのなら少しでも安いものを買おうと、チラシ広告をチェックしたりしてはいないでしょうか。かくいう私も、同じようなジャガイモが並んでいたら、安い方に手が伸びがちです。

ところがこの間合った農家のご隠居さんの言葉に、目から鱗がドザツと落ちた！

話は、どんなに手を掛けて肥料を施しても、土壌の味には適わない…という正統な流れから要約すると、おいしい作物を育てるものは、単に肥沃であれば

いいということではなく、土壌の質、地下水や風の流れとそれらの質、日照時間と時間帯など多くのものが微妙に作用して、その地の風土をつくっているのだ、元の土が悪い(?)とこゝろでいくらがんばつてもそれなりのものしかできないという話。

「でもさあ、里芋のおいしい場所(産地)でジャガイモをつくったら、それもおいしいかという、それは違うんだよね。土地に合うおいしい作物があるんだよ」

そうだよなあ〜と聞いていた直後、その鱗の落ちたお言葉が…

「でね、家の近くの安売りスーパー、みづとにその土地に合わない、おいしくないものばつかり並べているんだよね」

安い食材をゲットしてちよつと得した気分でしたら、じつはまずいものばかりを食べ、人生大きく損をしていた…なんてことになるのかも。

ご隠居が若かりし日に農業の師匠にもらった「本物を見る目(舌?)」。その「かけがえない宝」で、「ご隠居は東京都稲城市で特産の梨作りを継承し、そしてこの地に名産の葡萄を育て上げたのです。(文／伊東久枝)

アンケートが
投稿しやすくなりました



Present

アンケートに答えて
シェアリングネイチャーグッズを
ゲットしよう

アンケートは…

- ◆HPトップページから
<http://www.naturegame.or.jp/>
- ◆投稿専用サイトから
<http://www.efeel.to/survey/sn106/>
- ◆メール・FAXでも
sasaki@naturegame.or.jp
FAX 03-5363-6013

メール・FAXの場合は下記の番号順にお答えください
【アンケート項目】

1. お名前
2. ご住所(会員番号)
3. 本誌の評価(A.とても良い/B.良い/C.普通/D.良くない)
4. 良かったコーナー
5. プレゼント希望(①/②/③)
6. 本誌へのご意見・ご要望

プレゼント①の
お申し込みは
9月25日(木)まで

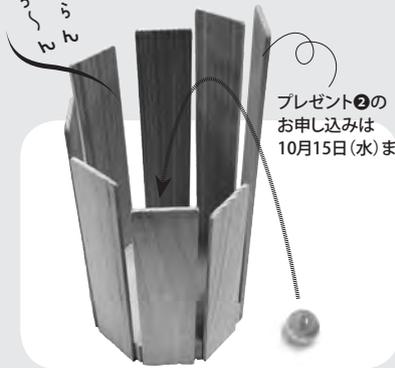
10/11(土)
10:00~11:00

会場
大泉学園ゆめりあホール(東京)
未就学児も参加OK



① 三宮麻由子さんトーク&コンサート
ペアチケット 3名様

特集で取材をした三宮麻由子さんと仲間によるピアノの演奏&トーク。記事にあった『ラ・カンパネラ』の演奏や絵本の読み聞かせも。



プレゼント②の
お申し込みは
10月15日(水)まで

② カラコロ木琴 2名様

ビー玉やドングリなどの木の实を入れて振ると、なんともステキな音が聞こえる円形の木琴。自然のなかに行かなくても、音で自然を感じることができます。ヒノキの香りも漂い、癒し効果も！



プレゼント③の
お申し込みは
10月15日(水)まで

③ 自然がモチーフの巾着袋 2名様

シンプルでイラストがかわいい巾着袋。小物の整理やネイチャーゲームのグッズ入れに。A4ぐらいの大きさがあり、たっぷり入ります。綿100%/色：ベージュにブラウンのイラスト。



このかたち
です!
ワケあって

自然の“かたち”を集めよう!!

開催日: 10月19日 (sun)

第8回 全国一斉 シェアリングネイチャーの日

2014年のテーマ:《かたち》

「シェアリングネイチャーの日」は、毎年10月第三日曜日に
身近な自然を自由に楽しもうというコンセプトで開催されている、参加自由型イベントです。
事前の登録も、ややこしい手続きもありません。
10月19日のいつでも、どこでも、誰とでも
あなたが自然を楽しむ活動をしたその瞬間、その場所がイベント会場です。

体験を Facebookでシェア <https://www.facebook.com/snnohi>

全国各地の イベントに 参加してみよう 全国イベント情報 <http://www.naturegame.or.jp/know/p-event/>

お問い合わせ: 公益社団法人日本シェアリングネイチャー協会

<http://www.naturegame.or.jp/>

V	うずまき	かお	ハート形	ほし形	ギザギザ	まる	平行	ほうしゃ状

自然のなかで、左の絵と同じ形のものを探してみよう!
 SharingNature サンプルカード

色と模様で
自然を身にまとう

秋の訪れを知らせるリンドウ。着物のお洒落は、自然の摂理に基づいている



朽葉色のグラデーションの装いは、唯一無二の、枯れゆきながらも輝きを放つ自然の色をお手本に



なんもしない アウトドア

夏の名残が後を引く9月の終わり。
一足早く訪れる秋を感じに、岩手の山へ向かうと
エゾオヤマリンドウが咲いていた。
「あつ。だから、夏から早秋に着る模様なのか」と
私は着物の柄を思い出す。

季節の先取りが粹とされる和服の世界。
着物の装いを難しいと思うときもあるけれど
なにを身に纏うべきか…は、自然に問えばいい。

…萌黄色、東雲色、朽葉色…
その響きだけで胸が高鳴るような和の色たち。
独特なその色は、華やかな色も落ち着いた色も
すべてがカラフルなアースカラーだ。

色の名に、呼応できる情景を心に増やし続けたい。
山へ出かける朝、靴下に
森の実の赤をそっと取り込んだ。
春夏秋冬の美しさを配色で表現する
着物の「襲色目」を真似て、色で遊ぶ。
着物の感覚で、アウトドアウェアを選ぶと
山との距離がより近くなれる気がするから。

日本の伝統衣装が教えてくれたのは、そこに宿る
自然を愛でる心と、四季をお洒落で楽しむ感性。
いつしか着物に袖を通すことも、私にとって
自然に寄り添う行為になっていた。

Yuri Yosumi profile

白百合女子大学卒。執筆、講演、ウェア開発を通し、「大自然と自分らしいスタイルでつながりたい」というメッセージを発信。山スカートの先駆者、着物着付け師としての顔ももつ。「朝日新聞」「Yahoo!スポーツナビDo」などで連載中。著書に『一歩ずつの山歩き入門』がある。

My Book

『デイリーアウトドア』¥1,200+税
足もとの小さな花を見つめよう、芝生で裸足になってみよう…自然と仲良く暮らすヒントを綴ったエッセイ。

